

## 紺野高裕 大会会長 挨拶

全道各地の皆様、おはようございます。

「川のまち旭川から子どもたちの笑顔と希望の架け橋となって 未来をともに創り出そう！」をキャッチフレーズに、ここ旭川市において、全道各地 550 名の方の参加申込を得て、第 65 回北海道小学校長会教育研究旭川大会が、新たな試みであるハイブリッド形式で初めて開催されますことは、非常に意義深いことでもあります。

この場には 110 名ほどご参集いただいております。旭川市小学校長会の皆様には、長期に渡りこれまで経験したことのなかった業務を含め準備にあたっていただきました。開催方法の変更にも結束してご対応くださり、その甲斐あって、今回は 3 年ぶりに話し合いによる「分科会」を開催することができます。ご尽力いただいた方々のご労苦に、改めて感謝申し上げます。

本教育研究大会の開催に当たりまして、公務ご多用にもかかわらず、全国連合小学校長会長 大字 弘一郎様、同事務局長 小泉与吉様のご臨席を賜りましたことに、心よりお礼申し上げます。ありがとうございます。本日は、大字会長より当面の諸課題についてのご講話をいただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

また、例年ですと北海道教育委員会からのご講話もございました。昨日行われた第 3 回理事研修会にて、中澤義明指導担当局長様よりご講話をしていただきました。その記録は研究大会の集録に収めさせていただくことになっております。

本教育研究大会は、私たち道小の根幹を支える活動です。全道校長の半数以上が参加する研修の場において、教育の現状を語り合い、北海道教育の質の向上に向けて、我々校長が研鑽を積んでいくことが大切です。

道小では、これまでも分科会の充実を図るために、グループ討議の在り方やアナライズカードの活用、討議内容の視覚化など、様々な工夫を重ねてきました。今回はオンラインを活用したやり取りということで、難しい面もありつつ方法を工夫しております。参加される会員各位の積極的なコミュニケーション等のご協力に負うところが大きいと存じます。準備にあたられた皆様のご努力に応えるためにも分科会の充実に向けて、ご協力いただきますようお願いいたします。

今、コロナ禍における様々な対応に奔走しながらも、教育改革の動きは益々加速しています。旭川大会が新たな起点となり、北海道教育の充実・発展に資することを信じております。本大会において、各分科会の課題を究明していくことを通して、研究内容が全道各学校に還流され、学校経営に反映されていくことを強く願っています。

結びになりますが、本大会の開催に当たり、きめ細かく周到な準備を積み上げてこられた、石前実行委員長を中心とした旭川市小学校長会の皆様と、お力添えを賜りました北海道教育庁上川教育局、旭川市及び旭川市教育委員会をはじめ、多くの皆様に厚くお礼申し上げます。

それでは、学校改善と本道教育の質の向上のために、ここ旭川の地と全道各地を結んで、大いに研修に努めることを誓い合い、開会の挨拶といたします。

本日は長い時間となりますが、どうぞよろしくお願い申し上げます。